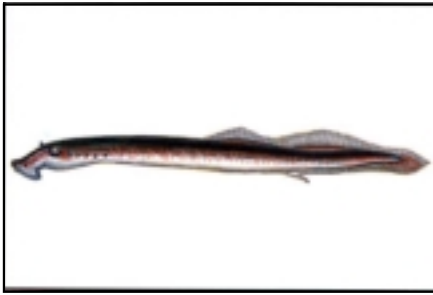
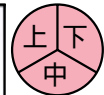
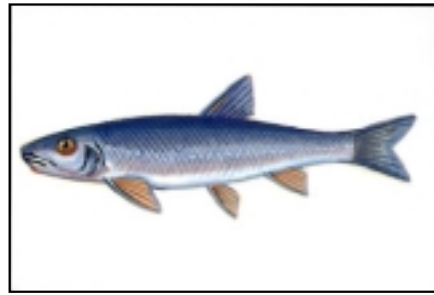


種名 スナヤツメ (カゲヤツメ)



姫川の中流のきれいな小川で、底に砂や泥があるところにすんでいます。体は細長く、胸びれ、尻びれがありません。片方の目の後ろに、エラ穴が7つならんでおり、口は丸い吸盤になっています。  
以前は、姫川の下流でも見られましたが、最近では、水質が悪くなったので、減っています。姫川の渓流部よりほかの場所で見つけることは、難しいようです。

種名 ウグイ (ハヤ、ハイ)



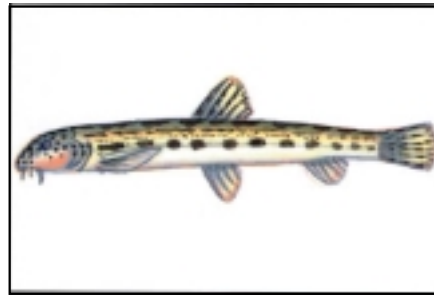
姫川の上流から河口、池や湖にすんでいます。青みがかった褐色をしています。産卵期には、赤いしまがあらわれます。産卵期以外は、海へ下って生活するものもいます。  
姫川の上流から河口まで、広く見られます。なかでも、河口や下流にはたくさんすんでいます。釣りや網で採られ、なじみ深い魚です。

種名 サケ



9～11月に、産卵のために海から川へ上ってきます。わき水の出ている、底が砂利になっているところに、卵を産みます。幼魚は、3～4月頃に海に下っていきます。  
姫川では、虫川が合流するあたりで見つかっています。県知事の許可が無いと、採ってはいけません。

種名 シマドジョウ



姫川の中流の、底が砂場になっているところにすんでいます。肌色の地に、黒い模様が並んでいて、口のまわりには3対のヒゲがあります。驚くと、砂の中にもぐってしまいます。  
以前は、姫川の中流から下流にも見られたようですが、最近、上流に限られています。上流には、わりとたくさんいます。

種名 ヤマメ (サクラマス)



姫川の上流から中流の、流れが速いところにすんでいます。体のわきには、パーマークと呼ばれる楕円形の模様があります。海に下ったものは、模様が消えて全身が銀色になり、サクラマスと呼ばれます。  
姫川では、河口のあたりまで、上流や中流のように流れが速いため、全地域で見られます。釣り魚としても人気があります。

種名 ヨシノボリ類



姫川の中流や湖、ため池に広く見られ、川では、もっともふつうに見られるハゼ類です。体の色や模様に変化があります。卵からふ化すると海へ下り、2 cmくらいで再び川へ戻ってきます。  
姫川の下流や河口で見られ、なかでも、河口にはたくさんいます。姫川では、オオヨシノボリ、シマヨシノボリ、トウヨシノボリがすんでいます。海から上がってきた稚魚は、佃煮にして食べられます。